

畑中さんと動物考古学

七尾野尻湖友の会 平口 哲夫（金沢医科大学）

畑中恣さんから私の研究室にはじめて連絡があったのは、十年以上前のことです。「平口先生の息子さんですか。お父さんの平口先生にお世話になった畑中です。七尾市崎山の縄文遺跡から出た動物の骨や石器をみていただきたくて」との電話の声に、高校生のころの畑中さんのなつかしい姿が思いうかびました。

私が中学生のころ、畑中さんは高校生で同じ町内に住んでおり、私の父のもとに数学の手ほどきを受けにきていたのです。畑中さんのお兄さんも習いにきていたことがあります。お兄さんのほうはずんぐりして柔和な顔立ち、ご本人のほうはすらりとして精やかな感じでした。お通夜するとき、お会いしたお子さんたちが、高校生のころの畑中さんにとってもよく似ているように思いました。

畑中さんが石川考古学研究会会誌第 25 号に投稿した「能登七尾市崎山の縄文時代遺跡について」（1982）によれば、野尻湖の発掘にはじめて参加したのは 1974 年 3 月、七尾市北峰中学校の理科の先生として子供たちと動・植物遺体の出土する遺跡の調査にとりくむようになったのもその年の 5 月からであったということです。1974 年といえば、9 年間すごした仙台から私が金沢にもどってきた年でもあります。石川考古学研究会会誌の名簿に畑中さんの名前がのるのは第 18 号からですから、1974 年か 75 年に入会したのでしょう。上山田貝塚の発掘調査が 1975・76 年に行われ、現地説明会には畑中さんも来ていたということです。でも私は、畑中さんから電話があるまで、あの「畑中さん」とはぜんぜん気がつかなかったのです。

電話後ほどなくして研究室に来られた畑中さんから野尻湖発掘の話をうかがいました。私もかねてより湖底発掘に参加してみたいと思っていましたし、畑中さんのすすめもありましたので、まずは七尾野尻湖友の会にと、入会したのが 1985 年のことです。しかし、3 月末 4 月初というのは、ほかの大学とちがって、かえって日程が組みにくく、その年の湖底発掘には参加することができませんでした。ようやく念願がかなったのは、2 年後の第 10 次発掘調査です。そして、第 11 次発掘調査にも畑中さんといっしょに参加することができました。

畑中さんも私も、野尻湖専門グループでは、人類考古グループに属していました。動物遺体を人類とのかかわりで研究するのが動物考古学ですが、これに関心があっても、自分で直接調べる考古学者は少なく、北陸では私ぐらいしかいません。そういうわけで、畑中さんは貴重な存在でしたし、これからお互いに協力して動物考古学をおし進めていこうと思っていた矢先に、突然の事故で逝去されてしまったのは、まことにいたましく残念でなりません。いまだに信じがたいくらいです。



野尻湖第 11 次発掘調査の集合写真（1990 年 3 月 30 日撮影）

後列左端が畑中さん、その右隣が筆者

『故 畑中恣追悼文集』（七尾野尻湖友の会、1992）から転載、改訂